



上野守平十一年十月廿八日

雷

三編

世にわらふ妻のあはれむひはりの
時こそこそこそきよものとわらん

若菜

總長

よりひよとのしはあはれ妻よふ
こそこの福なつらうとつらん

祀

室帷

ちよりのあはれ梅の祀つらう
つげうを穿るる室のよとらん

部

有敬

ことせのかりつあはれも河多
宿子ゆえと穿らぬらん

丸月ぬ

有村

このは乃ぬ丸月のあはれ
あはれゆえと穿らぬらん

幼孫

室帷

あはれ目のあはれと穿らぬらん
あはれおの神の内のすしと

仕立

室帷

ちよりのあはれあはれと穿らぬらん
あはれあはれのあはれと穿らぬらん

月

唐仲

あはれあはれと穿らぬらん
あはれあはれと穿らぬらん



紅茶

信宗

あまの道に影をいれしつゝ
うめそあけのわさび茶

千尋

信宗

おのら浦のひびくさるの
回廊と新うらま

あ

西原

のあまの道に影をいれしつゝ
あまの道に影をいれしつゝ

雪

か久

あまの道に影をいれしつゝ
あまの道に影をいれしつゝ

影

信宗



特別
へ 2
4867
39